

日本の空襲—六 近畿

大阪 大阪・堺・豊中・吹田・池田 兵庫 神戸・明石・姫路・尼崎・西宮・三宮・生野・伊丹・三田・龍野・高槻・羽咋山崎 和歌山 新宮
田辺・勝浦・新宮 京都 京都・舞鶴・宮津・河内・阪・竜岡・鳥羽・高槻・大津・大宮・伊丹・三田・龍野・高槻・羽咋山崎 滋賀 奈良



近畿

焼けた両手は下げることできません、
バンザイの形で両手を上げて歩くのです。
全裸でうつ伏せに踏みつぶされた幼児の……

これが捜し求める我が子では

三木谷君子

京都の空襲

一九四五（昭和二〇）年一月一六日の真夜中、宵の地震で眠りを覚まされた京都市民がひとねむりしたころ、B 29 特有の爆音とそれに続く金属的な振動音、そして不意に起こったドカンという爆音の響きに飛び起きてみると、東山方面に火の手が上がっていた。これが京都市東山区馬町の空襲であって、死者四一名、負傷者五〇名、家屋全壊二九戸、半壊一一二戸、一部損壊一七五戸にのぼった。これが京都空襲の最初であった。もちろん、これらの被害はすべて秘密にせられ、ごく近くの人びとがおよそを知っているだけで、翌日には、損害軽微で被災者は早速復興に立ち上がっているという新聞記事がかかげられただけであった。

当時の日本軍はその前年にサイパン・グアム・テナアン・レイテの諸島を失い、米軍はこれらの島に上陸し基地を設け、日本本土にたいする米軍の爆撃も漸次ひんぱんとなっていた。しかし、その爆撃は東京中心であって、一九四五年の一月になって、大阪・名古屋・浜松などの都市に小規模の爆撃がはじめられていた。それが、やが

てこの年三月一〇日の東京大空襲を皮切りに、名古屋・大阪・神戸と、都市空襲が開始されるのである。第一回の京都空襲は、この期間の都市にたいする小規模空襲の一環として行われたと見られる。この期間に京都府下では一月二三日に船井郡西本梅村（園部町）、宇治町、久世郡御牧村（久御山町）、同二九日には相楽郡上狛町付近などが小規模の空襲をうけており、宇治では四名の負傷者を出し、上狛町では約一〇〇戸が一部損壊をうけた。ついで二月には、久世郡久津川村に爆弾が落とされ、全壊家屋一、一部損壊三戸を出し、三月一九日には南桑田郡曾我部村（亀岡市）、京都市右京区春日通付近などが爆撃され、右京で全壊一、半壊二の被害をうけた。四月には七日に相楽郡山田荘村山林、一六日には京都市右京区太秦の第一四製作所が爆撃され、工員二名死亡、四八名の工員や学徒が負傷した。そして五月一日には京都市上京区の京都御所その他（一一一名負傷）、中京区西ノ京銅駝町の三興線材会社（一名負傷）が機関砲で被弾、綴喜郡有智郷村に爆弾が落とされた。

六月に入ると、京都空襲もようやく頻度をまし、一日には久世郡御牧村、相楽郡木津町、五日には同加茂町、綴喜郡三山木村、同多賀村（負傷二名）、九日には相楽郡高山村、西和束村、笠置町などが空襲をうけ、笠置町では農耕中の老婆が射殺された。六月一五日には桃山御陵前・小倉間の近鉄沿線が爆撃された。そして六月二六日朝には上京区出水地域に死者五〇名、負傷者六六名、全壊家屋七一戸、半壊八四戸、一部損壊一三七戸を出した、京都市最大の空襲を記録したのである。

敗戦前月の七月になると空襲は京都府下に集中され、七月一〇日亀岡市保津町、一九日乙訓郡長岡町神足（死亡一、負傷五）二四日宇治市大久保日本国際航空会社（死亡六、負傷不明）、そして二九日の舞鶴市海軍工廠空襲には死者工員学徒など九七名、負傷一五〇名、三〇日の舞鶴湾内艦船空襲では、死者八三名、負傷者二四七名の多数にのぼり、多数の艦船がほとんど撃沈された。このほか七月三〇日には宮津湾の艦船および宮津市内が空

という。

保津町

一九四五（昭和二〇）年七月一〇日午後三時ごろ、西の方向からB29二、三機が飛来し、亀岡市保津町の牛松山中腹の山林に爆撃を投下した。

山には大穴があき、山林に被害がでたほか、近くの民家が小破した。

同日、保津橋近くで銃撃された人もおり、保津川原には薬きょうが多数散らばっていたという。

馬町

一九四五（昭和二〇）年一月一六日午後一時二三分ごろ、アメリカ軍爆撃機B29一機が、三重県境より滋賀県をへて京都市内に侵入し、高度約六、〇〇〇メートルの上空を一周したのち、東山区馬町一帯に爆撃を投下した。このとき落とされた爆弾は、当時モロトフのパンかごと呼ばれた親子爆弾とも大型爆弾ともいわれ、大部分は上馬町西部、下馬町に落ち、一部は区役所北側妙法院前側町、さらに鳥辺山に落下、爆発した。

この爆撃により死者四一名、負傷者四八名をだし、家屋一四一戸が全半壊し、被災者総数は七二九名に達した。馬町は、寺院と学校があるだけの典型的な住宅地で、爆撃目標となるような軍事施設は存在しなかった。

馬町の被爆は京都空襲のはじめであり、夜ふけ、警戒警報もでないうちに突然爆撃うけたので、警備本部は、

とくに民心動揺という点を重視した。そのため、現場の写真撮影はもちろん、被害状況を手紙に書くことも禁じられ、各所にデマ禁止のビラがはりだされた。

西陣

一九四五（昭和二〇）年六月二六日午前九時半ごろ、B29の編隊（六〇一〇機）が近畿地方に侵入し、空襲警報が発令された。編隊は、京都上空を北西から南東に進行中で、そのうちの一機が上京区出水地域に五〇キロ爆弾あるいは二五〇キロ爆弾七個（二個は不発）を投下した。

この地域の被害が京都市ではもっとも大きく、北は上長者町通り、南は下立売通り、東は大宮通り、西は浄福寺通りの四〇〇平方メートルの範囲で、死者五〇名をだした。負傷者は正親、出水、待賢の各小学校の救護所に運ばれ、手当てをうけた。その数は六六名といわれているが、救護にあたった医師は、負傷者は三〇〇名以上であったといっている。六月三〇日には正親小学校で死者の合同葬が行われた。被害家屋は全壊七一戸、半壊八四戸、一部損壊一三七戸の計二九二戸で、被災者は八五〇名にたった。

太秦

昭和二〇年四月一六日正午ごろ、京都上空を東から西へ飛んでいたB29一機は、右京区太秦地域四か所（うち三か所は太秦巽町、太秦唐渡町一九の路上、太秦東唐渡町）に、二五〇キロ爆弾一〇個を投下した。

一九四五（昭和二〇）年京都空襲被害一覽

三月	二月	一月				月
19	4	29	23		16	日
7. 15	5. 15	20. 15	15. 30	2. 40		時間
					B29	機種
					1	機数
9	83	5	11	銃撃	銃撃	爆下 数弾
南桑田郡曾我部村大字広畑 市)	久世郡久津川村	相楽郡上狛町 木津川河原、ぶどう畑、麦畑	船井郡西本梅村 字榎山の斜面 (現園部町) 大字大河内小	久世郡御牧村 (現久美山町)	宇治市宇治町	京都市東山区上馬町、下馬町、永田町、常盤町、下村町、西常盤町、東前側町、白糸町
						被 災 場 所
0	0	0	0	0	0	死 者
0	0	0	0	0	4	負 傷 者
	31	100				被害家屋被災者
						729

注 一—死傷者数は、一般市民の死傷者の数で、軍人は含まない。

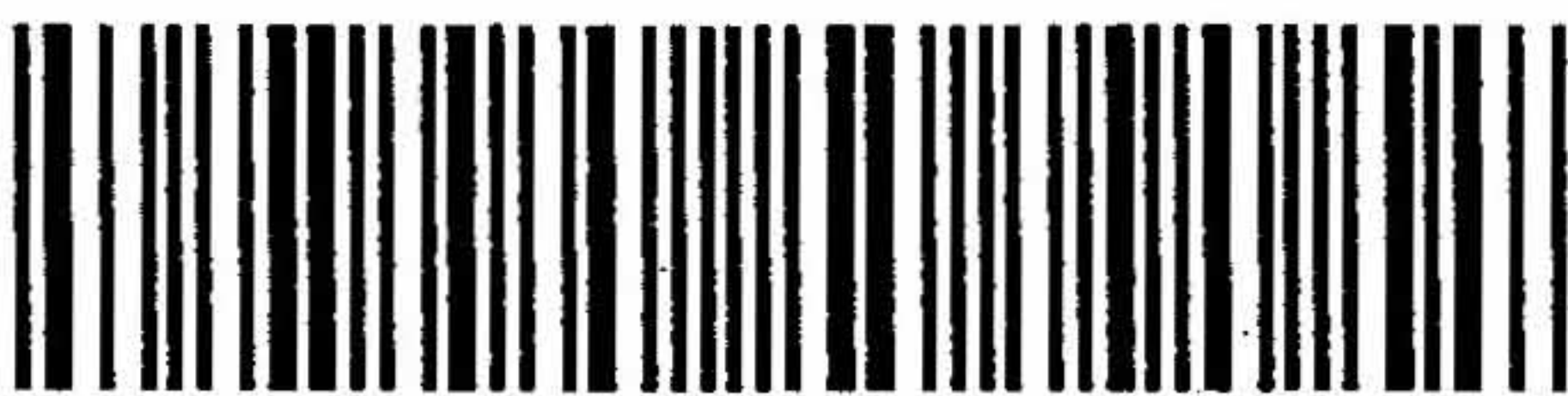
二—数字は判明したもので、不明分は空白とした。

三—合計は、百数十名は一〇〇として計算した。



10022013

東山園



255303610